

まもるがかり

特集

患者さんの体に負担が少ない低侵襲手術

新時代のロボット支援手術

いると安心!かかりつけ医

お近くのクリニックや診療所と
獨協医科大学埼玉医療センターとの連携

部門紹介

総合患者支援センター

各部門・相談窓口のご紹介



患者さんの体に負担が少ない低侵襲手術

新時代の ロボット支援手術



低侵襲治療センターでは、体の負担が少ないロボット支援手術を導入しています。

しかし「ロボットが手術をするの？」という声が多いのも現状。

そこで今回は当センターの教授3名に、ロボット支援手術の特長やメリットを伺いました。

センター長に聞きました



低侵襲治療センター長
泌尿器科
診療部長（教授）
齋藤 一隆



ロボット支援手術導入の背景を教えてください

近年の外科治療は、低侵襲化を目指してさまざまな医療技術を確認・進歩させてきました。超高齢化社会を迎え、より体に優しい安全な医療手法の重要性が増すとともに、ロボット支援手術をはじめとする術式に適応可能な診療や医学教育が求められています。そうした社会の流れに対応できるよう、当センターでは2017年12月からロボット支援手術を開始しました。



Da Vinci



hinotori™

センターの体制について教えてください

当センターには、外科、産科婦人科、呼吸器外科、泌尿器科合わせて四十数名のロボット認定資格医が在籍。最先端の手術支援ロボット「Da VinciXi（ダヴィンチ）サージカルシステム」と「hinotori™（ヒノトリ）サージカルロボットシステム」の2台を導入し、万全の体制で手術に当たっています。

手術件数、診療実績、適用術式について教えてください

ロボット支援手術では、保険適用の手術項目が続々と増えています。年間400例ペースでフル稼働しており、2023年度は2台の手術支援ロボットを用いて500件前後の手術を実施しました。日本では手術支援ロボットの種類も増えているため、今後はさらに手術件数が増加すると予想されます。

今後の展望について教えてください

当センターの外科系の医師や医療従事者は、日頃からロボット支援手術に関する知識と技術の向上を図っています。センター長としても、多くの方に多くの術式で低侵襲手術を受けていただけるよう、ロボット支援手術体制の拡充に努めているところです。今後も外科医療の魅力と実績を発信し、地域社会に貢献し続けたいと考えています。

ロボット支援手術の特色と患者さんにとっての利点を教えてください

ロボット支援手術では、3Dの内視鏡カメラで患部の立体画像を見ながらロボットアームを操作します。従来の開腹手術に比べて傷口も小さく、出血量が少ないのが特長。術後の痛みも軽く、回復も早いので入院期間を短縮できるのが大きな利点です。

主な手術保険適用術式

外科：胃切除術、直腸・結腸悪性腫瘍手術、
膵尾部腫瘍切除術、胆切除術
泌尿器科：前立腺悪性腫瘍手術、腎悪性腫瘍
手術、膀胱悪性腫瘍手術、腎盂
形成手術
産科婦人科：膣子宮全摘除術、子宮悪性腫瘍
手術
呼吸器外科：肺悪性腫瘍手術、縦隔悪性腫瘍
及び良性腫瘍手術

診療実績（2017年12月～2023年3月）

腹部外科ロボット支援手術：543件
泌尿器科ロボット支援手術：528件
呼吸器外科ロボット支援手術：94件
産科婦人科ロボット支援手術：144件

Doctor Interview



外科（肝胆膵）
診療部長（教授）
吉富 秀幸



患者さん一人ひとりに合わせて最適な手術方法を選択

当センターの外科領域では、食道がん・胃がん・大腸がん・膵がん・肝がんなどの消化器に対して、ロボット支援手術を適用しています。中でも胃切除の症例が多く、2020年の累積手術件数は埼玉県1位、全国5位となりました。2023年の実績は78件です。同年には大腸がん96件（うち直腸が43件）、膵臓で16件の手術を実施しました。肝臓は4件でしたが、当センターで肝切除術を始めたのが今年1月のため、今後は一気に件数が増えるでしょう。ロボット支援手術のメリットはさまざまです。例えば食道の手術であれば、肺炎が起こるリスクを減らせます。直腸の手術なら、開腹手術よりも出血量を抑えられる上、排便機能や性機能を温存できる確率が高いです。しかし、より繊細な操作が必要な場合は、開腹手術の方が適していることも。そこで私たちは、検査によって患者さんの体の状態を詳しく把握し、患者さんと密にコミュニケーションを取り、一人ひとりに合った最適な手術方法を選ぶようにしています。私たちの一番の目標は、患者さんの病気を治すことです。その目標に向かいチーム一丸となって精進してまいりますので、気になる点があればぜひ気軽にご相談ください。

鉗子を自在に動かせるため、より繊細な手術が可能

産科婦人科では、2022年までに140件強のロボット支援手術を実施しています。これまでは手術支援ロボット「ダヴィンチ」で年間40件ほどの手術を行なっていましたが、昨年3月より婦人科領域でも別機種「ヒノトリ」を活用できるようになりました。そのため、2023年度の手術実績は60件を超える見込みです。ロボット支援手術の対象となるのは婦人科腫瘍で、良性と悪性どちらの疾患も取り扱っています。現在のところ、保険適用上認められているのは良性疾患に対する子宮全摘と子宮体がんの手術です。良性疾患には子宮筋腫も含まれますが、大きさによっては開腹手術を行います。ロボット支援手術の大きなメリットは、術後の痛みが少ないこと。小さな傷口から挿入したアームの支点は、一定にしか動きません。そのため筋膜を傷つけず、術後の回復も早いです。術者としても鉗子を人の手のように動かせるので、より繊細な手術を行えます。ロボット支援手術と聞くと、ロボットに手術されるのかなと不安を感じる方も多いのが現状です。私たちは皆さんに安心して手術を受けてもらえるよう、メリットや手術内容を分かりやすく伝えるよう努めています。分からないことは何でも聞いてください。



産科婦人科
診療部長（教授）
高倉 聡



YouTubeでは今回のインタビュー動画を配信中！



動画を
一度に視聴したい方は
こちらから

いると安心！ かかりつけ医

お近くのクリニックや診療所と
獨協医科大学埼玉医療センターとの連携



“かかりつけ医”は、日頃の診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんのことです。

ちょっとした症状が気になるときや、健康診断で異常な数値が出たときなどに大変頼りになる存在です。

獨協医科大学埼玉医療センターは、かかりつけ医と連携しながら、地域住民の皆さんの健康をお守りしています。それぞれの特長や役割を理解して、上手に活用しましょう。

かかりつけ医(クリニックや診療所など)

あなたのことを良く知っていて、いざという時により大きな病院を紹介してくれます。日ごろから気軽に相談できる“かかりつけ医”を持つことが安心につながります。



患者さん



獨協医科大学埼玉医療センター



治療が難しい病気でも、高い技術を持った専門医が診療にあたります。まずは、かかりつけ医から紹介状を発行してもらい、診察の予約を取ってください。

通常診療

特長

じっくり診察してくれる。
日常の健康管理についてアドバイスをくれる。
検査・手術などが必要なとき、適切な病院を紹介してくれる。

それぞれの特長を理解しよう

かかりつけ医に
受診



専門的な検査、手術、治療

特長

重篤な患者さんに対して検査、手術を提供してくれる。
かかりつけ医と連携して、より良い治療方針を提案してくれる。

ちょっと
お腹が痛くて・・・



Aさんをご紹介しますので
お願いします

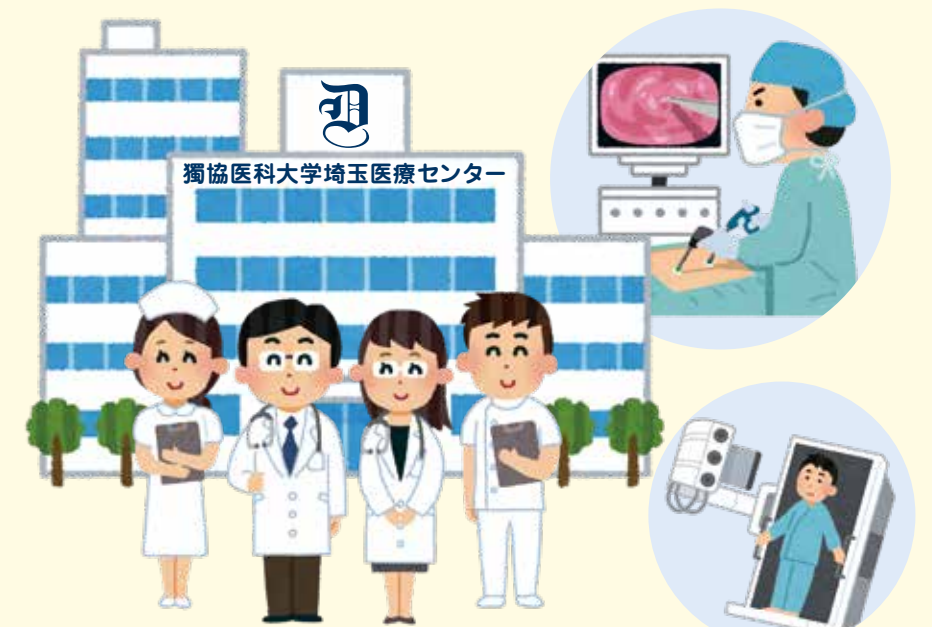
大学病院へ
ご紹介

分かりました！

紹介元のかかりつけ医へ
ご報告

なるほど、
では・・・

Aさんの
治療は・・・



部門紹介

総合患者 支援センター

各部門・相談窓口のご紹介



総合患者支援センター長
総合診療科 教授
齋藤 登

総合患者支援センターでは、医療連携部門、医療福祉相談部門、入退院支援部門、在宅医療部門及びクリニカルパス推進部門を設置しており、当院と地域医療機関との密接な連携、患者さんやご家族からの相談に適切に応じられる体制の確保、患者サービスの充実と推進並びに患者さんのかかえる様々な問題の解決を医療・保健・福祉の有機的連携により進めるため、相手の立場に立ってその機能を果たしています。

各部門・相談窓口の紹介

総合患者支援センターでは、以下のような部門、相談窓口を設け、地域医療機関・施設との連携や患者さん・ご家族のさまざまなご相談に対応しています。

医療福祉相談部門

専門の医療ソーシャルワーカーが心理的・社会的な問題に対する解決・調整援助、社会復帰に対する援助、経済問題に対する解決・調整援助等の相談を受け付けております。

医療連携部門

近隣の医療機関（かかりつけ医）からご紹介いただいた患者さんに対し、診療予約取得のお手伝い、その診療結果を紹介元に報告するといった業務を行っています。

入退院支援部門

入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決や退院後の支援に向けて早期に着手し、退院調整及び在宅生活をサポートいたします。

在宅医療部門

入院患者さんや通院患者さんを対象に、自宅で治療が受けられるように訪問診療や訪問看護においてサポートいたします。



クリニカルパス推進部門

クリニカルパス（病気ごとに治療や検査、看護ケアなどの内容及び診療計画を一覧できる形式にまとめたもの）を用いた診療をお受けになるための様々な運用支援を行います。

がん相談支援センター

総合がん診療センターと連携し、がん患者さんの療養上の心理・社会・経済的な相談をお受けします。

難病相談窓口

難病患者さんの療養上の心理・社会・経済的な相談、地域機関からの受診相談をお受けします。

脳卒中相談窓口

当院にかかりつけの脳卒中患者さんの心理・社会・経済的な相談、地域機関からの受診相談をお受けします。

患者相談窓口

どこに相談していいか分からない内容や当院・医療従事者に対するご相談、ご意見を伺います。

PFMシステム

当院では入退院支援部門の中に患者支援窓口を設け、PFMシステムを導入しております。PFMとは（Patient Flow Management）の略です。入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、一人ひとりの状況を身体的、社会的、精神的背景からしっかりと把握し、入退院に関連する多職種が連携して入院中はもちろん、退院後も含めた一貫した支援を目指しています。

受診の流れ

初めて当センターを受診される方は、下記の流れをご確認のうえ、ご予約をお取りください。

① FAX もしくは電話にて 診療予約を受け付け

地域の医療機関から診療予約の連絡を受ける。
※医療機関からではなく、患者さん本人もしくはご家族からの予約連絡も受け付けています。その場合はお手元に紹介状（開封不可）をご準備のうえ、以下の連絡先にお電話ください。

② 診療予約票を発行

紹介元の医療機関に診療予約票を FAX しますのを受け取りください。
※患者さん本人もしくはご家族からの予約の場合は、自宅にご郵送します。

③ 診療予約日に受診

紹介状、保険証、診療予約票をご持参ください。
※当センター受診券（カード）をお持ちの方は一緒にご持参ください。



<お願い>

まず地域の医療機関を受診し、専門的な診療が必要と判断され、当センターの受診を紹介されることが一般的な流れです。当センターでの診療を終え、いったん地域の医療機関に戻られた後、改めて紹介されて受診する場合にも同様に、地域の医療機関で当センター宛の紹介状をもらってください。予約を取る際は当センター宛の紹介状をお手元にご用意ください。



連絡先

総合患者支援センター医療連携部門

業務時間 （病院休診日を除く）

平日、土曜日（第3週を除く）
午前9時00分～午後5時00分

連絡先

TEL 048-965-1147（直通）

※紹介状をお手元にご準備の上、ご連絡をお願いします。

YouTubeでインタビューを 見てみよう!

今号の特集、「新時代のロボット支援手術」では教授3名にインタビューしました。YouTubeの動画で見ることができますので、ぜひご覧ください。



右記 QR コードを読み込んでご視聴ください。
配信は予告なく終了となる場合がございます。



獨協医科大学埼玉医療センター 地域連携広報誌

まもるがかり

発行 獨協医科大学埼玉医療センター
〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50
TEL: 048-965-1111(代) 048-965-1147(総合患者支援センター)
<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/>
制作 株式会社メディア・プラン <http://www.media-plan-tokyo.co.jp/>

命を守り、 命を輝かせる



理念

常に研鑽し患者の信頼にこたえる

病院概要

- 開設年月 昭和59年6月
- 許可病床数 928床
- 診療科名 糖尿病内分泌・血液内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、放射線科、総合診療科、外科、乳腺科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、救急医療科、麻酔科、集中治療科、こころの診療科、皮膚科、リハビリテーション科
- 診療受付時間 午前8時30分～11時30分
(但し、腎臓内科、脳神経内科、小児科、産科婦人科については午前8時30分～10時30分)
- 休診日 日曜、祝日、第3土曜日、開学記念日(4月23日)、年末年始(12月29日～1月3日)

アクセス

東武スカイツリーライン 新越谷駅下車徒歩3分
JR武蔵野線 南越谷駅下車徒歩3分



 獨協医科大学 埼玉医療センター
Dokkyo Medical University Saitama Medical Center

〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 TEL: 048-965-1111(代)

